

いずみHDが輸入担当部

直接買い付け原価抑制

生鮮食品卸大手

生鮮食品卸大手のいずみホールディングス(HD、札幌)は、食材の輸入にかかるコストを削減し、競争力を強化する。輸入を担当する部署を新設し、商社を介さずに現地で直接買い付けて仕入れ原価を抑え、取引先の飲食店に安く卸せるようにする。これにより取引先を増やし、5年後には輸入食材の年間売り上げを現在の2.5倍の50億円に引き上げたい考えだ。

いずみHDは、道内外の居酒屋やレストランなど約8千店にさまざまな食材を卸しており、このうち半分が輸入食材だという。輸入

にかかる経費を減らすため、9月に東京支社に国際部を発足。ネパール人を含む3人を新たに雇い、自前で食材を輸出入できる体制にし、これまでよりコストを1割減らせる仕組みを整えた。米国やインドから牛

肉やエビ、サケ、魚卵などを輸入することを視野に入れ、現地の貿易会社約20社と交渉に入っている。

また、国際部は道産食材の輸出拡大にも乗りだす。既にタイやシンガポールに鮮魚を空輸しており、今後は取扱品目をモカゴニやナガイモなどにも広げ、輸出货量を増やす計画だ。

いずみHDは、道内の産地で魚を水揚げしたり野菜

を収穫したりした時に撮影した動画を飲食店に配信し、インターネットで競りを行うシステムを導入している。希望する海外の取引先に対しても、この動画を

提供し、輸出増につなげる考え。いずみHDは「海外企業の視察も相次いでおり、関心は高い。取り組みを通して道産品の消費拡大にも貢献したい」としている。